

パロディ「アベのミックソ」

第一話 早分かり「アベのミックソ」

J大学医学部内科医長にアベセンセイが選出され、彼のポン友アッソウセンセイも副医長に任命された。二人とも学業成績は悪かったが、親の七光りで教授ポストを得た劣等生仲間。とくに研究業績もないが、彼らには人脈があるので医学部ではいろいろ重宝されている。この医局では多発性腫瘍の患者を多く抱えており、有効な治療法を打ち出せないまま、苦悶の日々が過ぎていたが、アベセンセイとアッソウセンセイが医局のトップに立つことになって、皆、戦々恐々としている。なぜなら、この二人は「荒唐無稽」な治療方針を堂々と主張しているからである。

勉強不足で現代医学に精通していないアベセンセイの治療持論は、とにかく患者を元気にさせることが第一で、そのために限りなくモルヒネや強心剤（カンフル剤）を使うこと。一時的にせよ、患者が元気になれば、後はその勢いで健康が回復することを信じて疑わない。多発性腫瘍の根本治療にはほど遠いが、とにかく必要なだけモルヒネや強心剤を使えという妄信に凝り固まっている。

厚生省の倫理委員会はモルヒネや強心剤の使用の制限を厳しくしており、アベセンセイの内科医長への就任が決まってから、倫理委員会はJ大学の治療実態に目を光らせている。

アシスタント「センセイ。モルヒネや強心剤を打っても、患者の容態に改善する兆候がみられません。やはり、この治療方針が間違っているのでしょうか」

アベセンセイ「馬鹿を言え。君は倫理委員会の制限を守って、ちょびちょびしか患者に投与していないからだろう。ドーンとやれ。目いっぱい強心剤を打って、患者が元気になるまで打ち続けろ」

アシスタント「それでは患者が死んでしまいます。死んでしまえば、取り返しがつきません」

アベセンセイ「君はまだ倫理委員会の規則を守っているのか。どうせ多発性腫瘍は治癒の見込みがないんだ。何度も言っただろう。やる時は思い切って大量に投与しないと効果がないんだ。数学科のフジワラセンセイもそう言っているぞ」

アシスタント「フジワラセンセイは医者ではありません。素人が言うぶんには構いませんが、専門医がそのように言いきってしまうと、問題になります」

アベセンセイ「これは何も俺だけの考えじゃない。アメリカの大学の世界的権威、ハマダセンセイから頑張れというFAXをもらってるんだ。ほれ、見ろ、こんな偉いセンセイからお墨付きをもらったんだぞ。額に入れて、俺の部屋の壁に飾っておけ」

アシスタント「でも、ハマダセンセイはもうお年だし、臨床に詳しくなく、理論研究分野の方だと伺っています」

アベセンセイ「理論だろうが、臨床だろうが、権威は権威だ。倫理委員会のシラカワ委員長はハマダセンセイの弟子だから、いずれセンセイの軍門に下るはずだ」

アシスタント「でも、全国医師会のヨネクラ会長も、センセイの治療方針を荒唐無稽だと批判されています。大丈夫でしょうか」

アベセンセイ「あれは失敬な奴だ。君、知らんのか。あのタヌキ親爺は後から電話で詫びを入れてきたんだぞ。失礼しましたと。だから言ってやったんだ。俺の医局の方針に、外からガチャガチャ言って、介入するなとな」

アシスタント「最近では、マスコミの方も、センセイの方針をアベのミックソなどと言ってリスクが大きいと騒ぎ始めていますし、ハマダセンセイもいろいろ批判を受けられて、ちょっと弱気になっていますが」

アベセンセイ「マスコミなど、気にするな。俺も馬鹿じゃないんだ。実際に治療する時は、投与量を匙加減して、患者が死なないようにする程度のことは分かっているよ。大げさに言っているのは、医長に就任するまでの話さ」

アシスタント「センセイ、言動に気を配ってくださいね。そうしないと、また足をすくわれて、神経症にならないとも限りません」

アベセンセイ「分かっているって。だからいつも精神安定剤を持ち歩いているんだ。それにしても、倫理委員会のシラカワはしぶとい野郎だ。どうしても俺に逆らうなら、解任してやる」

アシスタント「センセイ、それはいけません。倫理委員会には独立性が保証されているので、介入することは許されません。公になると、問題になります」

アベセンセイ「そんなことは分かっている。だから、裏から手を回して、俺の息のかかった者に交代させるだけだよ」

アシスタント「センセイ、慎重をお願いします」

第二話 「アベのミックソ」 結末

真正維新議員「アベのミックソ総理。金融緩和政策とインフレターゲットについて、質問いたします。まず、追加的金融緩和政策ですが、すでに対 GDP 比でみた日銀保有の国債残高は先進国の中でも一番高い水準にあります。すでに金融緩和をおこなって 15 年以上にもなります。金融政策で景気回復しようという政策の効果がないことははっきりしています」

アベのミックソ総理「今までですね、日銀が行ってきた緩和政策はですね、中途半端なんです。少しずつ資金枠を増やしてはですね効果がないんです。だから、私が無制限に緩和政策をやると言った途端、どうですか皆さん、すぐに株価が上がり、円安になったでしょう。これなんです。思い切ってやるのが、大事だと」

真正維新議員「ミックソ総理、いや失礼、アベのミックソ総理。株価が上がったのは、将来の長期金利の上昇を見込んだ欧米のヘッジファンドなどが、資産価格の上昇を見込ん

だ投機的な投資を始めた結果だと思いたが、これではマネーゲームが始まるだけで、実物経済の活性化に結び付きません」

アベのミクソ総理「仮にそうだとすても、株価が上がり、円安が始まったことが大切なんです。これは今まで誰もできなかったことなんです。私が主張して初めて、こういう良い方向に動き出している。とにかく、景気が上向くという実感がでるといことが大事だと」

真正維新議員「実物経済に資金需要がないのに、金融緩和だけが先行すれば、1980年代後半のような資産バブルが発生するリスクはありませんか。そうなれば、日本はさらに深刻な打撃を受けることになりす」

アベのミクソ総理「現在はですね、まだあの時のような資産インフレが始まっていません。ですから、とにかくデフレからインフレに転換できるような政策を展開することが大事だと」

真正維新議員「現在は、賃金が上昇しなくても、物価も上がらないので生活はなんとか維持できますが、賃金が上昇せずに物価だけが上昇すれば、国民生活は苦しくなります」

アベのミクソ総理「インフレへの転換過程で、仮にそういうことがあつてもですね、いずれ経済は活性化して景気が良くなりますから、賃金の上昇も始まって、すべてが好転するんです。それを信じて思い切った緩和策をやることが大事だと」

真正維新議員「日本のような成熟した経済で実物経済の量的拡大が見込めない以上、通貨量だけを一方的に増加すれば、資金は実物経済に回らず、金融資産や不動産の売買に資金が集中することになります。そうすれば、再び、同じバブルが始まって、手をつけられなくなります」

アベのミクソ総理「たとえですね、そういうことになったとしたら、引き締めをやればよいわけす。何も今からその心配をする必要はないと。とにかく、景気を上向きにすることが大事だと」

真正維新議員「1980年代のバブル当時、日銀は金融引き締め政策に転換するのが遅れました。そのためにバブルの後遺症を深刻なものにしました。金融界だけでなく、政治の世界までもが押し押しムードで動いている時は、すべての人が引き締め反対すから、日銀はなかなか引き締め転じることができません。同じ轍を踏まないという保証はありません」

アベのミクソ総理「それはですね、その時になって考えればよいことであつて、まだですね、何も起こっていない時から、そういう心配をするのは意味がないですね。とにかく大胆な緩和を始めることが大事だと」

真正維新議員「次に、インフレターゲットについてお聞きします。現在、日銀は1%の物価上昇目標を掲げています。これでも十分だと思いたが」

アベのミクソ総理「目標を掲げるだけでは駄目なんです。それを実現する強い政策がないと。だから、目標を設定したら、何が何でもそれを達成する姿勢がないと駄目なん

ですね。だから、政府と日銀が一体となることが大事だと」

真正維新議員「1%でなくて、2%に設定する意味はなんでしょう」

アベのミックス総理「理想的にはですね、名目で3%の上昇で実質1%が望ましいんですね。そうすれば、20年たてばGDPは倍近くなりますから。そういう経済発展の見通しをはっきりさせることが大事だと」

真正維新議員「訳の分からない説明ですが、所得倍増論などの古い考えに影響されているのでしょうか。日本のような成熟経済ではもはや量的に大きくしようとする時代は終わっており、これからは経済の構造や質をどう変えていくかという視点が大切です。人口が減り、労働力が減っていく時代に、高度成長期のような考え方は時代遅れです。経済学者のハマ教授は、このような旧来型の思考のアベのミックス政権を、ウラシマ・タロウ政権と呼んでいます。50-60年前の発想から抜け出ることができない人たちだと」

アベのミックス総理「私は寡聞にしてハマさんを知りませんが、失礼なレッテル張りですね。もしかしてイカサマ維新のハシモトさんが『ハマと言う紫頭おばはん』と呼んで物議を醸した人のことでしょうか。おばはん、失礼、ハマさんが何を言っているよと、私はですね、日本のGDPをもっと大きくして、シナ、いや中国に負けないほどの大きさにすることが大事だと。そうすれば、シナ、失礼、中国も簡単に日本を見下せない。尖閣諸島の問題もここにあるんですね」

真正維新議員「実際に2%の物価上昇が実現した場合、日本の財政赤字は急激に増大します。今は巨額の国債残高を維持しながらも、金利が低いので国債金利負担は横ばいですが、2%も物価が上昇したら、国債の金利負担だけでも毎年20兆円近く膨らむことになります。そうすれば、5%の消費税引き上げなど吹っ飛んでしまい、日本の国家財政は泥沼に落ち込んでしまいます。まさに、これこそヘッジファンドが狙っていることです」

アベのミックス総理「確かに金利負担は大きくなりますが、他方でインフレによって国の借金は目減りするんですね。アメリカの経済学者もこうやって日本の国家債務を減らすのが望ましいと言っているんですね。だからインフレが大事だと」

真正維新議員「インフレで国の負債が目減りする分、他方で市中の銀行が抱える国債資産が目減りして、銀行経営が立ち行かなくなります。そうなれば、再び大きな金融危機が起これ、日本経済は大混乱に陥り、ただでさえ巨額の債務を抱える国家財政は現在の年金制度も健康保険制度も維持できなくなります。そうなった時に、総理、あなたは責任を取れますか」

アベのミックス総理「そういう深刻な事態になる前にですね、私は再びお腹が痛くなって、総理の座にいません。ですから、私は責任の取り様がないですね。これは私が率いる党を選んだ有権者の責任でもありますから、国民の皆さん全員に責任があると。そういうことではないでしょうか」

オシマイ

(関連記事は <http://morita.tateyama.hu> を参照)